

平成 20 年度町田市教育委員会

第 6 回定例会会議録

- 1、開催日 平成 20 年（2008 年）9 月 19 日
- 2、開催場所 第三、第四会議室
- 3、出席委員
- | | |
|-------|---------|
| 委 員 長 | 富 川 快 雄 |
| 委 員 | 岡 田 英 子 |
| 委 員 | 井 関 孝 善 |
| 委 員 | 高 橋 圭 子 |
| 教 育 長 | 山 田 雄 三 |
- 4、署名委員
- | | |
|-----|--|
| 委員長 | |
| 委 員 | |
- 5、出席事務局職員
- | | |
|-------------------|---------|
| 学校教育部長 | 安 藤 源 照 |
| 生涯学習部長 | 梅 橋 敏 博 |
| 学校教育部参事（兼） | 田 村 俊 二 |
| 教育総務課長 | |
| 教育総務課副参事 | 澤 井 陽 介 |
| 施設課長 | 金 子 敬 |
| 施設課学校施設管理センター担当課長 | 藤 川 満 正 |
| 施設課主幹 | 梅 村 文 雄 |
| 学務課長 | 松 村 信 一 |
| 学務課主幹 | 田 辺 久 人 |
| 指導課長 | 小 泉 与 吉 |
| 指導課教育センター担当課長 | 前 田 増 穂 |
| 指導課副参事 | 飯 島 博 昭 |
| 指導課主幹 | 吉 川 清 美 |
| 指導課主幹 | 谷 博 夫 |
| 統括指導主事 | 山 口 茂 |
| 指導主事 | 鈴 木 淳 |

生涯学習課長 天 野 三 男
生涯学習課文化財担当課長 丸 山 英 一
図書館長 守 谷 信 二
図書館市民文学館担当課長 新 田 善 壽
(町田市民文学館長)

図書館主幹 近 藤 裕 一
公民館長 手 嶋 孝 典
公民館副参事 石 井 健 一
書 記 堀 場 典 子
書 記 福 元 貞 栄
速 記 士 大 前 むつみ

(マキ朝日データサービス)

6、提出議案及び結果

議案第 31 号 職員の休職に係る処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
承 認

議案第 32 号 学校医等委嘱（解嘱）の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
承 認

議案第 33 号 都費負担教職員の転任に係る内申の臨時専決処理に関し承認を求めること
について 承 認

議案第 34 号 都費負担教職員の休職に係る内申の臨時専決処理に関し承認を求めること
について 承 認

7、傍聴者数 1名

8、議事の概要

午後 2 時 00 分開会

○委員長 ただいまより町田市教育委員会第 6 回定例会を開会いたします。

本日の署名委員は岡田英子委員です。

日程第 2 の議案審議事項のうち、議案第 31 号、第 33 号、第 34 号に関しましては、非公

開で審議をいたしますので、日程第4の報告事項終了後、関係者のみお残りいただいて、審議をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

以下、日程に従って進めてまいります。

日程第1、月間活動報告、教育長から説明をお願いします。

○**教育長** それでは、8月8日、教育委員会定例会以降の主な活動状況についてご報告をいたします。

まず、8月11日、「社会を明るくする運動」町田大会が市民ホールで行われました。ねむの木学園の宮城まり子さんの講演がございました。

8月18日、20日、高尾の森わくわくビレッジで初任者研修が2泊3日ございまして、初日と最終日に出席をいたしました。2日目にグループでいろいろ研究があったわけですが、最終日はその発表がありまして、聞いてまいりました。

22日、23日、HATSのつどいが公民館ございまして、出席をいたしました。

23日、大地沢の夏まつりがございまして、天候が雨模様だったものですから、例年に比べたら参加が少なかったのかなと思いますが、委員長と出席をしております。

25日以降、桜美林大学の授業力・教育課題研修会がありまして、それぞれ教育委員さんにご出席をいただきましたが、私は27日に出席をいたしまして、施設をお借りしたりということで、桜美林大学の方にお礼のごあいさつをしております。

26日、都教育庁と都市教育長会の意見交換会がございました。これは、内容的には総括校長の関係での意見交換です。まだ総括校長については詳細が都の方でも詰まっておりますが、いろいろ都の教育委員会と意見交換をしたところです。

31日、町田市の総合防災訓練がありました。メイン会場としては町田第一小学校の校庭ということで、出席をしております。

以下、9月4日から市議会本会議が始まりましたが、この関係については省略をさせていただきます。常任委員会の報告は後ほど部長の方からあろうかと思えます。

7日、町田シティオペラ協会主催によりますオペラがございまして、参加をしております。

12日、中P連のパトロール、これは例年行っているのですが、中心市街地をパトロールするというので、夜間ですが、7時から公民館に集合いたしまして、町田警察署の方のお話の後、パトロールをして、また戻ってきて、警察署の方からお話があったりということで行いました。

15日、リズム運動サークル主催によります2008まちだ体操祭が総合体育館でありまして、出席をいたしました。

○委員長 両部長から何かありましたら、よろしくをお願いします。

○学校教育部長 9月18日、市議会の関係ですが、文教社会常任委員会がございました。学校教育部につきましては、予算、条例はございませんでしたが、契約案件がございました。2010年4月開校予定の小山中央小学校の新築工事の契約関係の案件が2本ございまして、これについては可決ということになっております。

それからもう1つ、行政報告を行っております。忠生中学校における損害賠償請求事件の和解の案件でございます。これについても経過等をご報告し、ご理解をいただいたところでございます。

○委員長 それでは、各委員からよろしくお願いたします。

○井関委員 先月は議題がたくさんありましたので、ご報告を省略したのですが、今月はそうでもなさそうなので、少しゆっくり報告させていただきます。

まず、日本の学校はそれほど楽しくないかということなのです。これは先月報告し損なったのですけれども、玉川大学で開催された授業力・教育課題研修会で、いじめの問題で出てきたことです。先月の定例会で高橋委員が報告されましたけれども、NHKの教育テレビで放映されている「中学生日記」で取り上げられた実話をもとに、いじめ隠しのビデオ放映がありました。

講師の佐野先生が帰国子女に対してとったアンケートで、「日本の学校は楽しいか」ということなのですけれども、その結果は「楽しくない」という結果だったのだそうです。それは理由としては、勉強、勉強、規則、規則、褒めてくれない。特に先生は優しくなくて、厳しい目で評価ばかりしているということだったのだそうです。結論として、優しい目で子どもを見ましようということでもとめておられました。

これに対しまして、7月の「忠生中学校だより」を見ますと、アメリカから体験入学した女生徒の感想文が載っていたのですけれども、今のアンケートとは反対に、アメリカの学校にはプールはないし、休み時間は3～4分間と短くて話す時間もない。日本の学校の方が優しい。最後に、自分の学校は楽しいと思うと結んでいました。この女生徒自身が優しい性格なのでしょうけれども、大変うれしい記事でした。

プールに関しては、NHKの「クールジャパン」という番組で、外国の小学校には、設備費と維持費が高いということで、プールがある国は少ないのだそうです。また、泳げる

ようにする日本の授業のシステムは非常にすぐれていると言っていました。日本のよさはもちろんですけれども、町田のよさも何か再認識して、そういうことを伸ばしていくのが大切だなと感じました。

それから、同じく授業力・教育課題研修会の桜美林の方なのですけれども、8月26日の研修会で、「日本語指導が必要な児童・生徒の教育を取り巻く現状と課題」という講座がありました。4人のグループになって、三角形と四角形の区別をするという小学2年生の算数の授業の指導略案をつくる課題が与えられたのですね。それぞれのグループで、導入、展開、まとめを討論したのですが、時間が十分になかったので早く終わって、1グループだけが発表しました。

それを見ますと、授業の終わりにいろいろな形を示したドリルを使って、その中から三角形と四角形を探して確認させるというのがつけ加わったのですね。時間内に略案をつくるのは大変だなと思いました。自分も加わってやっていたのですけれども、与えられた条件になかったプラスアルファまで考えつくということでは、先生の力量——もし思いつかないときは、今回は参考にできなかつたのですけれども、指導書の役割が大切なのだろうと痛感しました。もちろんその指導書は見たことはありません。このプラスアルファのことが書かれていればということなのですけれども、日頃の研修の大切さを感じました。この授業力・教育課題研修会にご関係された方、大変ご苦労さまでした。

2番目は、8月10日、自由民権資料館の武相の結社展と講演会に行きました。これは記念企画展に来られたのか、あるいは常設展に来られたのかわからないのですけれども、夏休みの宿題もありましてか、子ども連れも何人かいて、いつもよりは見学者が多いなと感じました。

展示の資料によりますと、明治10年代半ばには、各結社の討論、ディベートが多くて、個人個人が主体的な意見を持つ必要があるとされていたのだそうです。なぜ今、議論が下手な社会になってしまったのかなと考えまして、この後できました集会条例、あるいは第二次世界大戦などへの過程などで変わってしまったのかなと、ちょっと残念に思いました。

ある結社の討論の題目例がずらっと表になっているのですが、その中には大変おもしろいものがありました。紹介しますと、貴族を廃止すべきかどうか、あるいは女帝を立てるのかという今でも取り上げられているようなこと。あるいは、男のいる女性が道路で接吻した処分はどうするか。さらに学校に関しては、公立学校を廃止する可否、中学校の教科書に政治書を加えることの可否など、冬の小学校教室に暖房のために炭火を使用する可否、

興味のあるものが出ていました。この最後の暖房などは、エアコン導入の可否という現在の問題に通じて、勉強本位でいいのか、あるいは我慢や体力の低下防止にいいのかなど明治に負けない議論をしてもらいたいなと思いました。

この日は、宮内庁書陵部の福井淳氏の「民権結社の活力と機能」という講演があったのですが、30人強の方が参加しておられました。明治の結社を政治中心の前期、後期、新聞やジャーナリスト中心の都市型、在地あるいは地方型の3つに分けますと、都市型と地方型の結社の設立趣意書の中から、どういう目的なのか、どのような人が参加できるのか、連合の進め方、あるいは会費などを比較して、企画展の資料の背景がよくわかる講演でございました。

この自由民権資料館というのは、学芸員の研究発表、特に10月25日、26日には、資料館主催でシンポジウム「民権運動再考Ⅱ」が開催されるのだそうですけれども、いわゆる学術的な活動をしているところで、小さな機関ですけれども、山椒は小粒でぴりりと辛いというところを見せていただければと期待しております。

最後は、道徳授業地区公開講座ですが、9月13日に武蔵岡中でした。この日は授業参観日で、1日学校公開となっていたのですけれども、午後1時間、朗読の授業をした後、体育館で講演会がありました。中学校の道徳授業公開というのは何校か行きましたけれども、どこも全体集会になると保護者の参加は少ないのですが、今回の武蔵岡中では全体集会の講演で、日本ハムで活躍した野球評論家の芝草宇宙さんの講演で、保護者と地域の方に声をかけたのでしょうか、40人くらいの参加がありました。全校で90人くらいの生徒数ですから、40人というのは保護者としては多いと思います。

話は、中学校から高校のときが一生を決める大切なときだったのだそうですが、目標と夢を持って生きることの大切さ、それと感謝の気持ちを持ってという話でした。おもしろかったのは、生徒から「奥様はいますか」とストレートな質問がありまして、びっくりされたようですけれども、「いますよ。証拠に、後ろにいます」というのがなかなかおもしろくて、4歳と2歳の子と一緒に出てこられました。多分、忙しいのでしょうね。この講演会に来るということで、家族と一緒に楽しんでいるような感じでした。すてきな奥様と一緒に道徳授業でした。また、男の子の方の質問は、野球をやっている子がキャッチボールをしたいと言って、グローブと軟球を持ってきて、目の前で、体育館の中ですけれども、芝草選手は快く受け入れておられました。

もう1つつけ加えておきたかったのは、会場の体育館は熱中症予防のために導入した大

型扇風機 2 台と冷風機 1 台を運転しておりました。先生の話では、運動中は子どもたちは冷風機の前に集まるということをしていました。

○岡田委員 今回、丸印をつけるのを忘れていたのですけれども、H A T S のつどいに行っていました。こちらの方では、ちょうど 8 月 29 日に協議会のところで教育プランについての話し合いもあったのですけれども、その中で、生涯教育は町田から文化の発信をしていこうという方向になるといいなという話をしました。まさに H A T S の展示を見ますと、それぞれ興味を持って講座を受けた仲間がそのまま続いて発展させているという形で、インドを知る会、町田史考会、そうしたところの方の非常に熱心な研究成果の発表を見せていただきました。研究のみならず、楽しみも同時になさっているようで、私自身も町田の道祖神などについて史考会の方から丁寧な説明をいただいて、非常に楽しんで帰ってまいりました。

桜美林大学は、くしくも井関委員と全く同じ講座に 2 日間続けて出たのですけれども、私は 2 日目の方の I T 関連のいじめに対するお話をしてくださった講座に出ました。そこで一番言われたのは、実際には I T の話よりも、むしろ本を読むこと、読書がいかに大事かということを強調されていらっしやいました。

話は飛ぶのですけれども、指導主事訪問で小川小学校に参りましたときにも、小川小学校の図書室の本は古くなってしまったものを処分しましたということで、本の冊数が非常に少なかったのですね。小川小学校の場合には親子文庫と同じ部屋を利用しておりますけれども、親子文庫の方が使っている図書の数の方が学校図書の数より多いのではないかと、いうぐらいの状況にありまして、やはり図書費が少ない中、何とかそちらの方に予算が回るといいなと感じて帰ってまいりました。

そして、桜美林大学の方の講座では、前日、ミュージカルの講座に出たという方とバスの中で一緒になりまして、その人が「昨日、あそこに出た？　すごくよかったわよ」とお話しされていたのですね。井関委員はちょうどそちらで実技をされたということでした。そのお話を聞きながら、やはり先生というのは、ある意味、教室が舞台の役者さんなのかなと思ひまして、講義形式のみならず、そうしたいろいろなバラエティに富んだ講座もこれからあるとおもしろいなと思ひました。

それから、教育委員会連合会の講演会がありました。これは多摩事務所の人に講演をしていただきまして、今後の学習指導要領改訂などを踏まえた上で、学校教育がどうなっていくかというお話を伺ったのですけれども、その中で非常に印象に残った言葉が、教育に

おける不易と流行という言葉です。いろいろと変化を受けている今の教育なのですけれども、やはり教育においては絶対に変えてはいけないものがあるということを再確認して帰ってきました。そこに何かぶれが生じたときには、やはり教育委員として、そこは変えてはいけないということをはっきりと声を上げていかなければいけないと思います。

それと同時に、この講演の中で最後に出た言葉が、日本はやはり教育立国だということをお話されていました。同様に、町田市の資源とは何かと考えますと——資源という言葉は失礼かもしれませんが、町田市は何が財産なのかと考えると、やっぱり人間ではないかなと思います。そうした意味では、町田市はやはり教育にある程度重点を置いて、いい教育をしていくことで町田市が豊かになるのではないかなと思います。

それから、31日、稲城市の城山体験学習館、これは図書館と併設されているのですけれども、に行ってまいりました。「サダコ」という原爆症で亡くなった女の子、広島折り鶴の塔のモデルになっている女の子なのですけれども、この展覧会が平和百人一首と同時に、2つの展示ということでやっていました。先ほど井関さんのお話で帰国子女のお話が出たのですけれども、私は子どもが2人とも帰国子女で、向こうの小学校で教育を受けているのですが、この「サダコ」というのは必ずアメリカの小学校で学習することなのですね。アメリカだけでなく、イタリア語、フランス語にも訳されていますので、外国の方が日本人と原爆や第二次世界大戦の話をする、「サダコ」の本を読んだよということになるのですけれども、意外に日本の人は知らない。ここのギャップでコミュニケーションをとりにくくなる。「何だ、サダコを知らないんだ」と外国の方は思ってしまうので。ああ、珍しいな、稲城市でそういったものを扱ってくれるのはうれしいなと思って見に行ってみよう。町田市でも「サダコ」に関するそうした紹介がなされるといいかなと思います。

最後につけ加えなののですけれども、井関さんのお話の中で、「日本の学校は楽しくないか」という帰国子女のアンケートで、圧倒的に「楽しくない」という答えだったというお話でしたが、うちの子どもたちはやはり日本の学校の方が楽しいということでした。町田市の学校に戻ってきたわけなののですけれども、先ほどのアメリカ人で忠生中に体験入学した女の子の話にもありますように、まず、学校環境が整っていることもありまして、休み時間がある。それ以外にも、小学校、中学校、どちらも経験しておりますけれども、やはりいろいろな面で子どもたちのストレスが少ないようにできているかと思っています。

これはどこの国から帰国するかにもよりますし、同じ国の中でもどこから入ってくるか

にもよると思うのですけれども、今、むしろ外国の学校の方が学習に関するプレッシャーは強いと思います。また、日本の学校はいじめに対する対応も本当に小まめにやっていたいています。日本全国の話にここで大きくすることはできないので、町田市の話で言いますと、町田では帰国だからといっていじめられるようなこともなく、本当にスムーズに溶け込めましたので、恐らく日本の学校は決して楽しくないことはないと思います。

○高橋委員 8月22日の金曜日、南第一小学校のワクワクスクールに行ってきました。現在、全国的に自治会や町内会離れが進んで、それに比例して地域の子ども会も少なくなったり、活動が縮小されたりしていて、子どもと地域とどのようにしてつながっていけばいいのか、希薄になっていく中、どういうふうに関わりについて教育活動を行っていくといいのか常日頃思っているのですけれども、そのことの参考になるのではないかと行って行ってきました。

22の講座がありまして、その講座を地域の方、教員の方、保護者の方が持ってきてくださって、そのいろんな講座に子どもたちが自分で応募して行くというものでした。例えば理科の実験では振り子の秘密、ドライアイスの体験、マイナス162℃の体験、あとは食育につながるクッキング、本当に小学生に思えないくらい、イワシどんぶりや野菜の味噌汁などをつくっていました。あと、バウムクーヘンづくりや電気パンづくり、メロンパンづくり、スポーツ系では合気道、スポーツチャンバラ、普通学校では習わないものもやっていました。卓球、ヨガ、ストレッチ、野球、囲碁、将棋、リサイクル工作、パソコン、昔遊びなどでした。

地域の方々、保護者の方はもちろんですけれども、民生児童委員の方や青少年健全育成委員の方、また、町田市の囲碁、将棋クラブの方々などが講師になってくださっていました。副校長先生が調整役としてそこに入っている調整をしてくださって、本当に時間と労力がかかるワクワクスクールだったと思うのですけれども、地域の方に授業を見てもらうだけでなく、授業をやらせてもらって、子どもと触れ合ってもらって、そのことが私は本当に大事だと思いました。子どもと触れ合うことで、子どもに対する関心もわくだろうし、顔も覚えて、地域にこういう子がいるのだなというのがわかるし、子どもたちもいろんなことを教えてくれる大人がいる、見守ってくれる大人がいるということで、こうやって子どもと一緒に活動する場がこのように学校の中で行われることは本当に素晴らしいと思いましたし、これから参考になるような教育活動だったのではないかと思います。

これに関しては、保護者の方々も65人くらい、夏休みを返上していろいろお手伝いくだ

さったそうです。子どもたち 600 人中 500 人くらいの参加があつて、夏休み中にかかわらず、高い参加率で、すごくいいなと思いました。

あと、岡田委員と同じなのですけれども、8月24日（日曜日）に、まちだ市民大学HATSのつどいに行ってきました。グランドフィナーレとコーラス、合唱、閉会式に参加してきました。これは22日から24日の3日間開かれていて、共通企画は、北欧の魅力、夜間中学を取り上げたドキュメンタリー映画「こんばんは」の上映、その森監督の講演会、星のお話、平和へのメッセージ、そのときに紙芝居や講演会、「シスター・チャンドラとシヤクティの踊り手たち」の松居監督の講演、生命とは何か、ダーウィン進化論を見直す、私も時間があつたら全部参加したいなと思うような内容でしたので、これをもっともっと宣伝して、たくさんの方が集まるといいなと思いました。私は私用で出かけなければいけなかったもので、行けなかったのですけれども、たくさんの方々が見られたらさらにもっとよい会になったのではないかと思います。

その後、展示の部も見ていきました。自然や環境に関するものがたくさんあつて、それらの会の人たちが、ただ机上で学ぶだけでなく、町田の自然を愛して、その自然を保全し、守っていこうという活動をなさっていることに大変感動しました。将来の子どもたちによい環境を少しでも残そうというようなことを学びながら、实际的にクリーン活動をなさったりしている様子も伺いました。

あと、人としてどのように生きるかというのを互いに知恵を出し合つて、老後の生き方を学び合う会、世界に向けての活動をしている会もあつて、本当にHATSの「あなたを励まし、地域を育てる」というテーマに基づいて活動をされていることが大変よくわかりました。町田中央公民館で開かれたということで、交通の便もよくて、こういう場で開かれていることをもっともっと宣伝して、多くの市民の方々が生涯教育にかかわっていくといいなと思いました。

あと、私も8月25日（月曜日）の桜美林大学での授業力・教育課題研修会に出てきました。私の友人にも高機能広汎性発達障がいのお子さんをお持ちの保護者の方がいらして、たびたびお電話がかかってくるのですけれども、そういうお子さんを育てている保護者の方々の苦しみや悲しみ、本当にいろいろなことがありますので、私もこの研修の機会にそのことを学びたいと思っていましたところ、東京都立梅ヶ丘病院の市川先生が「発達障害の理解と対応 医療の面から見て」という講座を開いてくださっていましたので、そこに参加してきました。

医療の面から見た発達障がいのことを話されていたのですけれども、先生目から見ても、少しずつ増えてきているのではないかと話されていました。先生方も大変熱心に聞かれています。講座が終わった後、何人かの先生方が市川先生のところに列をなして行かれて、多分クラスの中で大変困っていらっしゃる様子があるのではないかなと思って見ていました。

保護者の中には、学校のクラスにその子がいることで周りに迷惑をかけていると悩んでいるお母さんもいらっしゃるし、ほかのお母さん方からよく理解してもらえないために、子育てがうまくできない親として見られる苦しい立場があるのですけれども、知能障がいがない、知能がおくれていないということで普通のクラスにいて、なおかつ広汎性の発達障がいがあるので大変苦しい思いをしていらっしゃると思います。こういうクラスの中に何人かいてというケースはこれからも続いていくと思います。教育の大きな課題なのではないかなと私は思います。

高機能広汎性発達障がいの1人の子はもう20歳になっていまして、机のある小学校や中学校、高校のうちには机という自分の居場所があったのでよかったのです。でも、大学になってから自分の机がなくて、自分で移動して学んでいかなければいけないというときに、なじめなくて、溶け込めなくて、知能は高いのですけれども、行けなくなったということもあって、将来、その子をどうしようと悩んでいる友人もいますので、この問題は教育において大切なこれからの課題になっていくかと思いました。

ほかにもいろいろ研修の授業に出たのですけれども、学級経営ということで、国士舘大学体育学部子どもスポーツ教育学科の藤井千恵子先生のお話は、自分も教員をなさっていた経験を踏まえていろんなことを話されて、大変参考になりました。後半は学年の担任をされている先生方は学年に分かれて、私は参加しなかったのですけれども、学級経営のやり方を具体的にいろいろ指導してくださっていましたので、本当に役に立つ研修だと思って聞いていました。

9月7日に、オペラ「ルチア」&プッチーニ・アニヴァーサリー、生誕150周年のオペラの会に行ってきました。加藤拓未氏が解説してくださったので、オペラの内容もよくわかり、演奏会を十分堪能して聞くことができました。ソリストの方々の演奏もすばらしかったのですけれども、町田の混声合唱団のCANORA（カノーラ）というグループと一緒に合唱をなさっていて、本当にソリストとの息もぴったり合って、町田市全体の音楽性の高さがそこにあらわれているのではないかなと思いました。また、オペラを鑑賞する市

民がとても熱い思いで鑑賞されているなどということに驚きました。拍手も鳴りやまずに、何度も何度もアンコールの拍手が鳴ったり、会場全体が本当に音楽を愛する熱意と温かな雰囲気満たされていました。

終わってから懇親会にも出席したのですが、そのときにオペラ協会の方が、町田市の人口の割合からいくと、もう少し大きいホールが欲しいのですという話が出ていました。町田は小学校も中学校も合唱コンクールや合奏でも上位入賞するような音楽性の高い地域ですから、どんどんすばらしい人材が育っていくと思いますので、そういう面の環境を整えてあげていったらいいなと感じました。

9月12日に高ヶ坂小の道徳授業地区公開講座に行ってきました。高ヶ坂小は各学年2クラスの本当に小さな小ぢんまりとした学校だったので、私は校長先生と一緒に各クラスを回りました。保護者の方々が校長先生にも私にも「こんにちは」と、お母さん方がすごく積極的に声をかけてくださって、そのことが本当に印象的でした。

あと、授業の内容は、道徳は国語や理科やそういう教科の学習とは違って、先生との信頼関係の中で授業がなされていくことが大変必要だと思っているのですが、温かい雰囲気の教室で、日頃から先生と生徒の信頼関係がここにあるのだなと思えるような道徳の授業がなされていました。見ていて、子どもたちが自由に発言するし、それを先生が受けとめて、いろんな発言をしてくださるし、授業内容も道徳の本を使われて、町田市がつくった本も使われていたり、あとは独自に自分たちで教材をつくっていらっしやったりと、すごくよく研究されているなと思いました。

最後、校長先生とお話ししたときに、校長先生が「私は高学年の先生方にこういう指導をしています」とおっしゃったのは、高学年ともなると、保護者の悪口、家庭でこうだったよ、ああだったよと悪いことを言うてる。でも、そのときに教師が「そうなんだ、ひどいね」と言わないで、「そうなんだ。でも、君のお母さん、こういうところがいいよ」「お父さん、こういうところがあるね」と必ず親を肯定して、子どもに接していくように僕はしているのですという話を聞きまして、本当に保護者と先生方がそこで信頼関係を持ってやっている学校なのだなど、その発言からもそういうことがうかがえて、大変うれしく帰宅しました。

○委員長 後ほど報告のところでも教育課題研修会の総括があるかと思います。私も玉川大学と桜美林大学の両方の研修会に幾つか参加しました。私は、今年から実施される小中一貫教育プログラムということで、桜美林大学の方で英語教育と規範教育についての研修

会に参加しました。

1つ特徴的だったのは、英語教育で小学校の発表があったのですけれども、ある中学校の発表が、来年度入ってくる子どもたちが小中一貫教育プログラムの英語の一期生なので、その一期生をどう迎えるかという取り組みを学校全体で行っていて、小学校から中学校に入ってくる子どもたちが非常にスムーズに指導を受けられる、教育を受けられるということの対応を熱心実践的にやっていることが大変印象深かったです。すばらしい中学校の取り組みだなと思いました。そこに小中一貫教育プログラムの1つの姿が見えたということで、大変印象的でした。

それに対して規範教育では、小学校、中学校の2つの——小学校は2校でしたけれども、発表がありました。やはりこれはモデル校の発表ですから、モデル校がそれぞれ規範なり英語活動なり、どのように学校が取り組んで、その結果、どういう成果があり、どういう課題があったということをモデル校として発表してほしいなところ。ところが、ある学校ではほとんどそれがなくて、個人の印象だけが発表されて、せっかく大勢そのことを聞きに来られたほかの学校の先生たちに多分失望感を与えたのではないかなと思います。やはりモデル校としての発表には、もう少しそこらあたりのきちんとした取り組みを要求したいなという感じがいたしました。

同じ中学校の発表でも、英語と規範でそういう違いがあったのがやや残念な感じがしたのですけれども、これは今後の課題にしていかなければいけないなと思います。やはりモデル校ですから、学校としての取り組みが中心になるということを特に強調しておきたいなと思います。

それから、各委員からそれぞれ8月を中心にたくさんの行事や催し物に参加されての感想が出ましたので、それはまた各係で必要なことは受けとめて、対応をお願いしたいと思います。たまたまついこの間、この教育委員4人が指導主事訪問で一緒にある学校に伺ったときに、さっき岡田委員がおっしゃったように、図書不足ということをかなり学校から強調されました。来年度の予算編成期でもありますので、この図書不足をどのように今後考えていったらいいのか、どのように対応していったらいいのかあたり、もしお考えがあったら聞かせいただきたいなと思います。

それから、今年、長期休業の夏休みの短縮、あるいは繰り下げの学校があったと聞いておりますけれども、その具体的な校数、それから、繰り下げたり短縮で2学期を早く始めたりという学校はそれをどういうことに充てているのか、そして、それをどのように受け

とめているのかあたりを聞かせていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○指導課長 まず、図書の件でございますが、各学校は文科省が定めています学校図書の基準がございまして、基本的に町田の場合はほぼその基準にマッチしているところととらえています。ただ、本の更新等につきまして、限られた予算の中でやっておりますので、やはり子どもにとってみても新しい本は非常に興味がある。学校図書室の古い本ですと、なかなか子どもたちの関心と呼ばないということがありますので、そういった図書室の本の整備については、また指導課としましても学校の状況を踏まえた上で検討していきたいと考えております。

それから、長期休業中における授業の件ですが、鶴川第二小が7月下旬に5日間ほど午前中の授業を行いました。基本的には通常の授業を行っているところでございますが、それぞれ校長先生のお考えの中で、学力向上、基礎・基本の充実というところを取り上げるという考え方となっております。

それから、中学校の方ですが、13校が行っております。やはり同様の考え方で……。

○委員長 13校が繰り上げですね。

○統括指導主事 上げ下げあわせてです。

○委員長 上げと下げということですね。

○指導課長 3年生ということですので、やはり学力の定着を中心として行っているところととらえているところがございます。

ただ、来年度以降、新しい学習指導要領の実施に向けて、今、各学校の方で授業数の確保が非常に大きな課題になっておりますので、長期休業中等も含めて、指導課としましてもシミュレーションしまして、授業数の確保、それから同時に、指導内容の方法あるいは改善が一番大きなことですので、その辺のところについても検討していきたいと考えているところがございます。

○委員長 今のお答えで、確かに図書の充足については前にも報告があつて、とにかく平均並み以上の充足率だということは報告いただいているのですが、たまたまこの間行った学校が特にそういうことが強調されたので、多分、岡田委員から話が出たと思うのです。ぜひまた計画的に配置していかなければいけないものがあるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、中学校は13校、小学校は別途1校あつて、幾日かあるわけですけれども、大変な暑さの中で、生徒あるいは児童も含めてその暑さ対策、あるいは指導する立場の教員

の方から——今年は後半は割合涼しかった日もあるのですけれども、ひとしきり暑かったわけです。いずれにしても、夏休みというのは暑さの中で学習効率が下がるので、家庭に帰して、学校ではできない生活を送るのが夏休みの本来の目標だと思うのです。いろいろな理由はあるかと思いますが、あえてそれを夏休みの中に取り込んで学習をしていくということで、大変な暑さに耐えなければいけないので、エアコンの問題や、そのほか暑さ対策の問題でいろいろあったかと思うのですけれども、何かございましたでしょうか。

○指導課長 今回、暑さの対応については特別聞いてはおりません。ただ、小学校1校につきましては、7月の下旬で暑い日が続いたため、苦慮したという話は聞いているところでございます。

○委員長 夏休みを繰り下げて開始した方が、特に今年に限って言えば暑さの影響があったのではないかと思います。いずれにしても、小学校は1校だけけれども、中学校を含めて、子どもたちや保護者の理解も得た上での実施かと思えます。本来、夏休みの中で、さっきお話のあったワクワクスクールや何かとはまた意味が違ってくるので、いろいろなことを想定しながら実施していかなければいけない難しさがあるかと思えますけれども、ぜひ指導課を中心によろしくお願ひしたいと思えます。

○学校教育部長 今の関係ですけれども、小学校校長会、中学校校長会から新年度予算要望がございます。その中に今ご指摘があったような、夏休みの授業等を含めて対応をぜひ考えてほしい。やはり暑いということもその場ではお話としてはございました。

○委員長 それに対しては聞き置くだけにしておきましたか。

○学校教育部長 予算編成はこれからのことですので、私どもの方の立場としては明快なお答えにはならないということで対応してございます。

○教育長 東京都の中学校校長会が東京都の教育委員会に来年度予算の要望書を出しているのですが、その写しが来ましたけれども、やはり東京都の中学校校長会では、これからは授業時数の確保のために夏休みを短縮したり、弾力的に運用しなければならないので、特に空調施設について考慮してほしいという要望が出ていました。ただ、東京都は恐らく市に対して空調設備の補助は全く今やっていませんし、考えられないのかなと思えますが、それは新しいもので、今まで入っていなかったのではないかと思います。区部で結構空調を入れているので、自治体によって差が出てきている、それはおかしいのではないかと思います。都に対してそういう要望が出ていましたね。

○委員長 都立学校が全校で空調の設置が行われたということと、特別区はほとんどの区

で設置されているだけに、多摩地区の学校の未設置が逆にクローズアップされてきて、格差ということになる。ただし、都の考え方は、空調に関しては各自治体が考えることであるということで、都が設置するという事は……。

○教育長 まずないと思います。

○委員長 ないと思いますね。今現在はそういうことなので、今後、そういうことを視野に入れていかないと、単に学力の定着、時間数の確保ということだけで長期休業中の弾力的な運用というのはなかなか難しい時代になってきているのだと思います。いちどきすべての教室はとても無理な話だと思いますけれども、やはり今後視野に入れていかなければいけないということだけは頭に入れておきたいと思います。

ほかはないようでしたら、以上で月間活動報告を終わります。

日程第2、議案審議事項に入ります。

議案第32号 学校医等委嘱（解嘱）の臨時専決処理に関し承認を求めることについてを審議いたします。

教育長から説明をお願いします。

○教育長 議案第32号 学校医等委嘱（解嘱）の臨時専決処理に関し承認を求めることについて。

本件ですが、学校医の委嘱につきましては、町田市医師会に推薦をいただいておりますが、このたび山崎小学校、七国山小学校、山崎中学校の学校耳鼻科医の退職（7月31日付け）に伴い、町田市医師会より後任の推薦（8月1日付け）がありましたので、町田市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の任用に関する規定に基づき、委嘱（解嘱）するため、8月1日に臨時専決処理しましたので、教育委員会において承認を求めるものでございます。

次のページ、上段が8月1日付けで3校の学校医を委嘱する、下の方が7月31日付けで解嘱ということで、同じく3校を解嘱するという内容のものでございます。なお、委嘱する方については、8月1日から来年の3月31日までが委嘱期間でございます。

○委員長 以上で教育長の説明を終わりました。

これより質疑に入ります。

何かございましたらどうぞ。——以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第32号は原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長 ご異議なしと認め、原案のとおり承認することに決しました。

日程第3、報告事項に入ります。

5点ございます。追加はございますか。

では、指導課から順によりしくお願いします。

○指導課長 2008年度「大学と連携した授業力・教育課題研修会」についてご報告いたします。

期日は、2008年7月30日から8月1日の3日間、玉川大学で32講座を行いました。それから、同じく8月25日から8月27日までの3日間、桜美林大学で24講座行いまして、全部で56講座の研修会を実施したものでございます。

お手元の資料にございますように、受講者人数は1,311人で、昨年よりも若干増えているところでございます。延べ人数でございますが、3,610人でございます。この人数につきましては、昨年度よりも若干減少しているところでございます。教員以外にも、幼稚園、保育園、市内のスポーツ団体、あるいは玉川学園の小学部の先生方の受講もございました。教員だけで申し上げますと、全56講座中、1人平均約2.8講座の受講をしたということになっております。

成果と課題でございますが、今回の研修内容につきましては、現在の教育課題であります特別支援教育やいじめ・不登校問題、あるいは平成23年度から実施されます新学習指導要領の内容等に対応しました講座内容を柱に据えまして、教員の指導力、対応力の向上に資する内容となりました。

受講者数につきましては、先ほど申し上げましたように若干ふえておりますので、教員の課題意識があらわれてきたのではないかと考えているところでございます。教育委員会といたしましても、教員の研修のニーズに対応した研修会の実施ということについて、来年度も考えていきたいところでございます。

また、今回、この研修会につきまして教員のアンケートをとりました。現在それを集計しているところでございますので、次回、10月の教育委員会定例会においてお示しすることができるのではないかと考えているところでございます。

○指導課副参事 続きまして、指導課から、2008年度中学生職場体験学期別実施予定表のご報告をいたします。

来週の9月22日から9月26日まで第1期の職場体験が始まります。本町田中学校以下7校、全部で952人の生徒を予定しております。また、2期、3期につきましては、9月

9日現在の集計でございますけれども、先日ご報告いたしました第2期の不足分につきましてはほぼ充足いたしました。つくし野中学校につきましては、今現在、学校と連携して確保に向けて動いているところでございます。

また、若干名、例えば第1期の堺中学校が195人について193人で、2人足りないということで、そういったところにつきましてはやはり不登校生徒がいるということがございます。それについても、今後、なるべく参加ができるような形で、また学校の方に働きかけたいと思っております。

○生涯学習課長 「生涯学習NAVI」の発行についてご報告いたします。

昨年に引き続き、秋の10月、11月の一定時期をとらえまして、町田市の生涯学習情報を発信するために「生涯学習NAVI」を発行しました。部数は8,000部で、市の主要施設と市内大学と63カ所に9月10日までに配布いたしました。昨年は5,000部で、情報数66件、ページは30ページでありましたけれども、今回は情報数が86件、ページが42ページで内容が増えてございます。特に今回の情報提供元として、市内大学から公開講座等に情報提供をいただきました。また、表紙作成に当たりましては放送大学の協力を得ています。

昨年におきましては、配布設置した冊子の91%が市民利用されましたけれども、今年におきましても市民に活用されることを期待しています。

○市民文学館長 「町田が登場する文芸作品」・「芥川賞・直木賞受賞一覧」刊行につきましてご報告申し上げます。

7月と8月にそれぞれ作成し、発行いたしました。「町田が登場する文芸作品」は、町田生まれ、町田育ちの三浦しをんさんの作品である第135回直木賞受賞作「まほろ駅前多田便利軒」を初め、代表的な作品の簡単な紹介と、登場する町田市内の地域などをキーワードとして掲載いたしました。

「芥川賞・直木賞受賞一覧」につきましては、日本を代表する二大文学賞の受賞者を一覧にしました。町田市にお住まいだった方、現在も住んでいらっしゃる方が芥川賞では7人、直木賞では1人の方がおります。なお、次回作成の際はそれをわかりやすく表示するようにしたいと思います。

この2つにつきましては、いずれも200部作成しまして、文学館にて無償で配布しております。

なお、「芥川賞・直木賞受賞一覧」で町田市に関係ある方をご紹介いたしますと、芥川賞につきましては、1ページ目、9回目の半田義之さん、12回目の櫻田常久さん、19回目の

八木義徳さん、33 回目の遠藤周作さん、84 回、尾辻克彦さん、90 回、笠原淳さん、109 回、吉目木晴彦さん。なお、直木賞につきましては、一番最後のページの 135 回三浦しをんさんです。

町田市市制 50 周年記念特別企画展「文学の鬼を志望すー八木義徳」展の開催についてご報告申し上げます。

10 月 18 日から 12 月 14 日まで、市制 50 周年記念事業としまして、八木義徳展を開催いたします。八木義徳さんは、1969 年から約 30 年間、町田の山崎団地にお住まいになって、短編小説を中心に多くの作品を残した小説家でございます。1944 年、勤務先の工員をモデルにした「劉廣福」により、第 19 回の芥川賞を受賞いたしました。なお、晩年には日本芸術院恩賜賞、菊池寛賞、早稲田大学文化功労賞などを受賞いたしました。作家としての円熟期を過ごしたこの町田市で、没後 10 周年——これは 2009 年 11 月になります——を前に文学展を開催いたします。

なお、会期中には、紅野敏郎さん、佐伯一麥さんによる講演会、担当学芸員による展示解説を実施いたします。

また、2009 年 1 月から 3 月まで、北海道立文学館において、八木義徳展を巡回展として開催いたします。

○委員長 では、以上 5 点、一括して質問その他ありましたらどうぞ。

○岡田委員 大学の授業と連携の評価について、来年度以降検討していただけたらと思います。一緒に講義を受けていた先生が中学籍の先生だったのですけれども、講座の内容が小学校向けだったので、以後、最初のプログラムの配布のときにわかる限りで、これは小学校向き、中学校向きということの表示が出ていると、受講される先生方も大変わかりやすいかと思います。

○統括指導主事 ありがとうございます。参考にさせていただきます。

○委員長 ほかにございますか。——よろしいですか。

では、以上で公開部分の会議を終了いたします。

休憩いたします。

午後 2 時 58 分休憩

午後 3 時 03 分再開

○委員長 再開いたします。

別紙議事録参照のこと。

○委員長 以上で町田市教育委員会第6回定例会を閉会いたします。

午前3時07分閉会